



Japan International Education Society

日本国際教育学会

第 34 回研究大会 プログラム

日程：2023 年 9 月 30 日（土）・10 月 1 日（日）

会場：関西大学千里山キャンパス

主催：日本国際教育学会

後援：吹田市教育委員会

I 開催要領

- 1) 開催日程：2023年9月30日(土)・10月1日(日)
- 2) 大会会場：関西大学 千里山キャンパス(第1学舎 5号館(E棟))
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
- 3) 大会スケジュール(一部変更の可能性もあります)
9月30日(土)《()内は建物および教室番号》

9:30~10:00	受付 (第1学舎 5号館(E棟)3階 E306 教室前)
10:00~12:00	自由研究発表 I 第1分科会 (E301 教室) 第2分科会 (E302 教室)
12:00~	昼休み *昼食は各自でご用意下さい。
13:00~15:00	公開シンポジウム 「外国人市民への生涯学習支援と多文化共生—関西地方の実践を中心に—」 (E502 教室)
15:15~16:15	総会 (E502 教室)

10月1日(日)《()内は建物および教室番号》

9:30~10:00	受付 (第1学舎 5号館(E棟)3階 E306 教室前)
10:00~12:00	課題研究発表 「共生社会の実現と国際教育—多様な担い手の育成・確保の観点から—」 (E502 教室)
12:00~	昼休み *昼食は各自でご用意下さい。
13:00~15:00	自由研究発表 II 第3分科会 (E301 教室) 第4分科会 (E302 教室) 第5分科会 (E303 教室)

* 会員控室 (E305 教室)・大会実行委員会事務局 (E306 教室)

4) 理事会

9月29日(金) 17:00~18:30 *オンライン (Zoom) にて開催

5) 参加費 3,000円

- 非会員の方も臨時会員として参加できます。参加費は同額です。
- 参加費は受付時にお支払い下さい。「公開シンポジウム」のみに参加される場合は無料です。領収書は大会受付時にお渡し致します。
- 今大会においては、学生会員の参加費は無料です。なお、情報交換会は予定しておりません。ご理解のほど宜しくお願い致します。

※日曜日は学内売店、学食などすべて閉鎖しております。近隣にスーパーやコンビニがありますので、お手数ですが各日ご自身で昼食をご持参、ご準備いただきますようお願いいたします。

○関西大学 web「交通アクセス（千里山キャンパス）」をご覧ください。
<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/>

*ホテルはご自身でご予約下さい。関西圏内、大阪近郊のホテルは混み合っており、値段設定も幅広いため、ご自身でのご予約をお願いします。

8) 問い合わせ先

日本国際教育学会第 34 回研究大会 実行委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学文学部 赤尾勝己研究室
Mail : jies34th@gmail.com
(ご連絡は原則メールでお願いいたします)

Ⅱ 自由研究発表Ⅰ（9月30日（土） 10:00～12:00）

★第1分科会 【E301 教室】

司会：澤田敬人（静岡県立大学）

(1) 10:00～10:30

日本人学生の非英語圏 EMI 留学
—事例研究：タイ—

松崎 久美（名古屋大学大学院）

(2) 10:30～11:00

イングランドの Post1992 大学における学修成果
—グローバル・コンピテンシーに着目して—

杉野 知恵（お茶の水女子大学大学院）

(3) 11:00～11:30

大学国際担当上級管理職の専門性
—知識・経験・スキルの獲得と研鑽の課題—

米澤 由香子（東北大学）

(4) 11:30～12:00

さくらサイエンスプログラムを活用した国際共同研究チームの形成と留学生教育の試み

梅村 和夫（東京理科大学）

★第2分科会 【E302 教室】

司会：北野秋男（日本大学）

(1) 10:00～10:30

占領期教育改革の思想的背景に関する一断面
—行動科学者・三隅一成の教育史的位置をめぐって—

木田 竜太郎（関西福祉科学大学）

(2) 10:30～11:00

アクティブラーニングにおける大学教員の成長についての考察
—初任者の自省から—

劉 ヨウ（産業能率大学）

(3) 11:00～11:30

日本の私立大学公立化の考察
—関係者のインタビューに基づいた視点から—

楊 武勲（国立暨南国際大学）・林 思敏（中山医学大学）

(4) 11:30～12:00

コロナ禍における日本の大学の支援策
—外国人留学生を中心に—

林 思敏（中山医学大学）・楊 武勲（国立暨南国際大学）

Ⅲ 公開シンポジウム（9月30日（土） 13:00～15:00）

「外国人市民への生涯学習支援と多文化共生 —関西地方の実践を中心に—」

【E502 教室】

＜報告者＞

- 新矢 麻紀子（大阪産業大学） 外国人のリテラシーの保障と補償に向けて—「生活の漢字」の取組から—
山野上 隆史（公益財団法人とよなか国際交流協会） ともに学ぶ場づくりの実践—とよなか国流の取組から—
榎井 縁（大阪大学） 自己実現のためのことばを育むために—大阪の母校の取り組みから—

＜司会＞

赤尾 勝己（関西大学）

近年、出入国管理法の改正によって、新たに多くの外国人労働者が日本社会に移住しつつある。そうしたなかで、地域において外国人の子どもや成人と、共に生きていくことが私たちの生活上の課題となっている。本公開シンポジウムでは、多文化共生に基づいた学習支援がどのように実践されているのかについて、3名の登壇者から報告をいただき、その意義と課題を明らかにしていきたい。

まず、大阪産業大学の新矢麻紀子先生からの報告である。日本語は世界の言語のなかでも複雑な文字・表記体系を有しており、日常会話が自然習得可能であるのに対して、書記言語は自然習得がほぼ不可能である。そうしたなかで「『生活の漢字』を考える会」は、2006年から文化庁の日本語教育事業予算を得て、読み書きに困難を抱える「生活者としての外国人」を対象として「生活の漢字」教室を開催してきた。ここでは、外国人に一方向的にリテラシーの習得を迫るだけでなく、地域日本語教室がそして地域コミュニティが、日本人と外国人が対等でともに寄り添い支え合う場所となり、多文化共生を実現するために何ができるかについて議論したい。

次に、とよなか国際交流協会の山野上隆史様からの報告である。同協会の事業には多くの外国人が参加しているが、約30の事業を約400人のボランティアと運営している。まず学習の場として日本語交流活動がある。ここで自信をつけた人に、地域の子どものための国際

理解プログラムの講師や小中学校での国際理解教育の授業の講師をお願いしている。さらに力をつけた人が外国人市民会議に参加したり、市の福祉部局関連の委員会に参加するなどして、活動の場を広げていく。最初は、支えてもらうことが多かった段階から、徐々に創り出す側、周りを巻き込む側へと軸足を変えていくなかで元気になっていくのである。お互いの関係性が変化していくなかで、一人でも多くの人が居場所と役割を見つけられるように、同協会は取り組んでいる。

最後に、大阪大学の榎井縁先生からの報告である。大阪の高校の現場では、長年マイノリティの子どもの教育保障が課題として挙げられており、1980年代末には外国人の生徒にも援用されることになった。現在、大阪府内には8つの枠校(「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校)が設置されている。2022年度から枠校とった大阪わかば高校は、府内で唯一の多部制・単位制I・II部制の高校で、日本語に関する学校指定教科「自己実現のための日本語」を新設している。本報告では、これと並行して行われている教科外活動として「つながる力を育む活動」にも着目する。地域とつながる活動のなかで変化していく生徒の姿について報告し、自己実現するために育むことばについて共に考えていきたい。

IV 総会

総 会

2023年9月30日(土)

時間 : 15:15~16:15

場所 : E502 教室

会員各位にはご参加いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

V 課題研究発表（10月1日（日） 10:00～12:00）

「共生共生社会の実現と国際教育 —多様な担い手の育成・確保の観点から—」

【E502 教室】

＜報告者＞

吉田 尚史（福岡女学院大学）	基準カリキュラムにおける共生・多様性と教員養成カリキュラム
渡部 孝子（群馬大学）	学校教育現場に求められる多様性の受容
石井 由理（山口大学）	共生社会における教師の役割—教員養成課程ができること—

＜司会＞

栗栖 淳（国士舘大学）

2016（平成28）年『科学技術基本計画』で提唱された「Society5.0」の概念は、AI やIoT、ビッグデータの活用などの科学技術が我々の生活に浸透し活用される社会像を描くとともに、現状認識として地球規模の経済・社会的課題への取り組みを前提としたものであった。この認識は 2015 年国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals:SDGs）」における全世界的な課題と呼応し、今後の教育の在り方が問われる際の論点を提示するものであった。

これらに共通して取り上げられる課題、持続可能な開発計画に向け、多様性を前提とした共生社会の実現の理念と取り組みは、学校教育におけるカリキュラムの編成においても重要な影響をもつものと捉えられる。日本の文脈では 2017（平成 29）年の基準カリキュラムの改訂の際に「グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、子供たちの成長を支える教育の在り方も、新たな事態に直面していることは明らかである」との認識が示されている。

これらの課題に取り組むため共通の認識と実践が学習活動をデザインし実践する多様な担い手の育成・確保に求められると考えられる。従って本課題研究では共生社会の実現と国際教育を多様な担い手の育成・確保の観点からテーマとしその課題と展望を検討する。

Ⅵ 自由研究発表Ⅱ（10月1日（日） 13:00～15:00）

★第3分科会 【E301 教室】

司会：今井貴代子（大阪大学）

(1) 13:00～13:30

中国上山下郷運動と知識青年の農村建設

趙 天歌（早稲田大学研究員）

(2) 13:30～14:00

生涯学習講座への参加促進要因の検討
ーフィンランド・オウル市の市民カレッジを事例としてー

大谷 杏（福知山公立大学）

(3) 14:00～14:30

ブラジルにおける教員養成教育の現状と課題
ー遠隔教育に焦点をあててー

山口 アンナ 真美（北海道教育大学非常勤）

(4) 14:30～15:00

ケニアの学校から職業への移行過程
ー現状と課題ー

子浦 恵（東京農業大学）

★第4分科会 【E302 教室】

司会：田中達也（釧路公立大学）

(1) 13:00～13:30

日中における国際理解教育の比較

張 子瑩（早稲田大学大学院）

(2) 13:30～14:00

教育目標における「国際性」と教師のグローバル・シティズンシップ教育観
ー私立高等学校の取り組みからー

吉田 太一（国際基督教大学大学院）

(3) 14:00～14:30

アジアの教育課程からみた市民性教育に関する一考察

小川 佳万（広島大学）・石井 佳奈子（広島大学大学院）

★第5分科会 【E303 教室】

司会：平岡さつき（共愛学園前橋国際大学）

(1) 13:00～13:30

韓国多文化家族支援における地域連携の新たな取り組み

呉 世蓮（関東学院大学）

(2) 13:30～14:00

3-6歳の子どもの親子関係における親の育児自己効力感に関する研究

陳 俊（広島大学大学院）

(3) 14:00～14:30

オーストラリアの幼児教育課程における性の多様性に関するカリキュラム検討

中村 春菜（早稲田大学大学院）

日本国際教育学会第 34 回研究大会 実行委員会

実行委員長 赤尾 勝己

事務局長 田中 潤一

事務局次長 木田 竜太郎

実行委員 大谷 杏

実行委員 今井 貴代子

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

関西大学文学部 赤尾勝己研究室

Mail : jies34th@gmail.com

日本国際教育学会 第34回研究大会プログラム

2023年9月6日

日本国際教育学会第34回大会実行委委員会(委員長 赤尾勝己)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学文学部赤尾勝己研究室内

jies34th@gmail.com

印刷所 すばる印刷

〒535-0022 大阪市旭区新森7-9-29